

お茶にせんね

〈リレー随筆〉



住民参加のまちづくり

しもがわ ひでゆき
下河 秀行

硬いお話をする前に、このリレー随筆「お茶にせんね」の前執筆者、高山亀雄・喜一郎さん親子が経営されている九州郷土料理「有薫酒蔵」についての思い出を少しだけ……。私が学卒後、最初に入社したのが郷土紙「フクニチ」で久留米支社に勤務していました。その頃、郷土「西鉄ライオンズ」は、高倉豊田、中西、大下、関口と続く強打線と、川崎、河村、島原、西村、畑、稲尾などの豪華投手陣で、常勝「読売ジャイアンツ」を三連覇するなどして福岡の街は沸きに沸かせた。そのため「フクニチスポーツ」は、二十数万部が飛ぶように売れていました。ちょうどその頃、私はまだ若かったのですが先輩諸氏に連れられ毎晩のように久留米松竹横の路地にあつた「有薫酒蔵」ののれんをくぐった。そこでは各社マスコミを始めとしてゴム

三社等の面々が美味しい酒と郷土料理を求めて毎晩のように顔を出していた。当時の店主、高山亀雄さんの「お客のもてなし」がうまく、常連さんが絶えなかつた。しかも飲みぶりや支払いや来店回数等を総合判断されて、初段、一段、二段、三段などと店内に表示されていた。商売が繁盛して一家は首都、東京へ上京された。さて、前置きが長くなりましたが本論の「住民参加のまちづくり」について述べます。私はゼネコン時代、長かった福岡勤務から転勤で東京本社に來たのが平成四年でした。見慣れぬ東京でしたが娘たち二人がいる東京に永住することを決め、環境のいい石神井公園近くに土地を買い、家を新築しました。それに加えてリタイア後に備えて、地元でNPO「練馬まちづくりの会」に参加することにしました。人間誰しも「自分が住んで

いる街を良くしよう」という気持ちは同じだと思えます。終の棲家である練馬の街、特に地元「石神井のまちづくり」に日夜積極的に活動しています。練馬区では「都市マスタープラン」や「まちづくり条例」の作成に関わり条例化しました。地元では、練馬区が立ち上げた「石神井公園地区まちづくり協議会」で議論したものの纏めて、区長に「まちづくり提言書」として提出しました。練馬区では、三十年かけて現在の緑被率を二十%から三十%にアップすることを目指しています。また、この四月から練馬区の「都市交通マスタープラン懇談会委員」として区長から委嘱され、これから活動することになりました。これからも「住民参加のまちづくり」を楽しみながら行なってゆきます。

今回は下河秀行さんの紹介により石麻裕美さんです。



下河秀行
(しもがわひでゆき)
1935年柳川市三橋町生まれ。三橋中、伝習館高、福岡大卒。フクニチ、大末建設。石神井まちづくりクラブ代表。

(カット 漸知エリカ)